

1 教育活動の発信について

- ・附属中学校におけるプロジェクト学習は高く評価されており、特色ある教育活動として認められている。
- ・こうした取組について、学校内外に向けた情報発信の充実や、見学機会の工夫などを通じて、理解の促進を図ることが望まれる。

2 進路・高大接続に関する情報提供

- ・県立大学における授業料等無償化制度について、対象条件（県内に一定期間居住している者）や、大学院段階まで支援が及ぶ制度であることなど、内容を正確かつ分かりやすく周知することが重要である。
- ・入試制度の動向や進学状況（例：理系分野においては大学院進学が一般的となっていること等）についても、学校説明会等を通じて具体的に情報提供し、進路選択に資する理解を深めることが望まれる。

3 節目を活かした取組

- ・附属中学校 20 周年の節目にあたり、学校の教育活動を広く発信する機会として、アートフェスティバルなどを活用し、地域や社会に開かれた取組を検討することが期待される。

4 生徒の生活面等に関する支援

- ・生徒評価において、生活習慣や健康管理、安全意識等に関する項目について、引き続き丁寧な指導と支援の充実が求められる。

5 通学に関する課題

- ・通学手段に関する課題については関係機関と情報共有がなされている。
- ・引き続き状況を踏まえながら、学校行事等における対応の工夫が望まれる。

6 学校運営・評価の在り方について

- ・学校評議会を通じて、生徒の安心・安全な学校生活の確保や、多様な能力の育成に向けた取組が進められていることが確認された。一方で、アンケート結果の数値化による評価については、課題の可視化に有効である反面、実態が見えにくくなる側面も考えられるため、結果の解釈や活用にあたっては留意が必要である。また、達成度等の数値が過度な負担とならないよう配慮することが望まれる。

7 学校の魅力向上について

- ・学校は多様な生徒が集う場であることを踏まえ、生徒の成長や姿が周囲から評価されるような教育の充実が期待される。
- ・オープンスクール等においても、学校の魅力が伝わるような取組を通じて、より多くの関心を集めることが期待される

8 総括

- ・学校の教育活動は概ね適切に進められている。
- ・今後も、附属学校としての特色を生かしながら、さらなる発展に向けた取組が期待される。